提案方式について図を使って説明します。

ステップ１～５の5つのセクションに分けられます。

[STEP-1]では、冗長的で性能が不均一なWEBサーバを用意します．

[STEP-2]では、それぞれのサーバの応答速度を測るため，サーバにリクエストを送って応答速度を返す「応答速度計測プログラム」を作成し利用する．

[ STEP-3 ] です。STEP-2で計測したデータは考案した応答速度評価アルゴリズムを用いてL1～Lnのn段階で評価付けをおこないます．

評価は主観的になりやすい為，先ほど、関連研究に上げた、「Webサイトの反応時間の遅延と，それに対するユーザの反応」や「RAILモデル」を参考に評価を行います.

[ STEP-4 ]では、評価されたデータを評価済み応答速度としてデータベースへ保管します。

[ STEP-5 ]でロードバランサはこのデータベースへアクセスすることで、

サーバの状態に応じて割り振り方法を動的に変化させることが可能になる．

＜実装した割り振り方法＞

１～～～  
これは、現在速度だけで、加味してしまうとたまたま調子が良いサーバに優先接続するのを防ぐ為です。

２～～～

10秒以上応答がないサーバは何かしらのトラブルが生じている可能性が高いので、接続を行いません。タイムアウトに近いものを作り対策しました。

＜結果スライド＞

実験結果です。ラウンドロビンの応答速度は、0.4秒なのに対して、プロトタイプは0.15秒でした。ラウンドロビンの選択頻度が、３３％～34％とほぼ均等なのに対して、プロトタイプでは、81サーバの選択頻度が7割近く占めています。サーバ郡の中で最も速いサーバに多くつなぐことが出来たため速度が向上したからだと考えられます。